

アスパラ防除基準(10a当たり)

【殺菌剤・殺虫剤】

防除時期のめやす	農薬名	適用病害虫	希釈倍率	10a当たりの散布基準	使用方法	認証のための使用回数	農薬カウント数	
春先・萌芽前	火災による土壌表面焼却(越冬病害虫防除)							
春の収穫								
春収穫終了後	収穫残さ・若茎等をできる限り茎を残さないように全刈り							
全刈り直後	ベンレート水和剤	茎枯病、株腐病	2000倍	100～300L	散布	1	1	
畦面への盛り土(5cm程度)								
立茎開始当日	ベンレート水和剤	茎枯病、株腐病	2000倍	100～300L	散布	1	1	
前回散布より3日以内	ダコニール1000	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病	1000倍		散布	1	1	
前回散布より5日以内	アミスター20フロアブル	茎枯病、斑点病、褐斑病	2000倍	100～300L	散布	1	1	
十分な敷きワラを行う(土の跳ね上がり防止による茎枯病の予防)								
6月中旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
6月下旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
	デルフィン顆粒水和剤(ホルトとの混用しない)※留(7)	オオタバコガ、ハスモンヨウ、アオムシ、シロイモジヨウ	1000倍	—	散布			1
7月上旬	ダコニール1000	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病	1000倍		散布	1	1	
	スピノエース顆粒水和剤	アザミウマ類	5000倍	100～300L	散布			1
7月中旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
	コテツフロアブル※留(7)	ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨウ、ジュウシホシクビナガハムシ、ヨウムシ	2000倍	100～300L	散布			1
7月下旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
	モスピラン水溶剤	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ジュウシホシクビナガハムシ	4000倍	100～300L	散布			1
8月上旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
	デルフィン顆粒水和剤(ホルトとの混用しない)※留(7)	オオタバコガ、ハスモンヨウ、アオムシ、シロイモジヨウ	1000倍	—	散布			1
8月中旬	アミスター20フロアブル	茎枯病、斑点病、褐斑病	2000倍	100～300L	散布	1	1	
	スピノエース顆粒水和剤	アザミウマ類	5000倍	100～300L	散布			1
8月下旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
	コテツフロアブル※留(7)	ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨウ、ジュウシホシクビナガハムシ、ヨウムシ	2000倍	100～300L	散布			1
9月上旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
9月中旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
	デルフィン顆粒水和剤(ホルトとの混用しない)※留(7)	オオタバコガ、ハスモンヨウ、アオムシ、シロイモジヨウ	1000倍	—	散布			1
9月下旬	Zボルドー	茎枯病、斑点病	500倍	100～300L	散布	1	0	
	(又は ICボルドー66D)	茎枯病	100倍	100～300L	散布			
10月中旬(収穫終了後)	ICボルドー66D	茎枯病	50倍	100～300L	散布	1	0	
11月上旬	ICボルドー66D	茎枯病	50倍	100～300L	散布	1	0	
火災による土壌表面焼却(病害虫防除)								
※【特別散布】	アミスター20フロアブル	茎枯病、斑点病、褐斑病	2000倍	100～300L	散布	1	(1)	
ボルドーを除く上記薬剤は収穫前日までの使用可能(収穫の24時間前までに使用する)。ボルドーは使用時期の指定なし。 ICボルドー66Dは収穫中は100倍、収穫終了後は50倍で散布。								
【除草剤】								
使用時期	使用農薬名	対象草種等	使用量/10a	散布量/10a	使用方法	認証のための使用回数	農薬カウント数	
萌芽前、収穫打切後(雑草発生前)	トレファノサイド乳剤	一年生雑草(ツクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く)	200～300ml	100L	土壌表面散布	4剤のうち3剤を選択して使用する。	3	
萌芽前(雑草発生前～発生始期)	ロックス(水和剤)	一年生雑草	150～200g	70～150L	全面土壌散布			
萌芽前～萌芽始期又は収穫打切後(雑草発生前～4、5葉期)	センコル水和剤	一年生雑草	100～150g	100L	雑草茎葉散布又は全面土壌散布			
収穫前日まで(雑草生育期萌芽前又は畦間処理)		一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草茎葉散布			
留意事項							計	12

留意事項

- 特別防除を除き、農薬カウント数を12で設定。Zボルドー、ICボルドー66D、スピノエース顆粒水和剤、デルフィン顆粒水和剤は農薬カウントしない。
- 特別防除は、県より発生情報(警報、注意報、地区報に限る)が発表された場合に限る。
- 展着剤は、アピオン-E、アプローチBI、ハイテンパワーを使用する。(野菜の殺菌剤・殺虫剤に登録のあるもの)
- 各薬剤とも使用回数、希釈倍率、散布量など使用方法を厳守し散布する。
- 予防防除、初期防除に努める。
- 耕種防除との組み合わせにより、農薬使用回数の削減に努める。
- 殺菌剤と殺虫剤の混用について
 - コテツフロアブルとホルト液の混用については、必ずコテツフロアブルを先に調整後にホルト液を混用する。
 - デルフィン顆粒水和剤は、ZボルドーやICボルドー66Dとの混用はできないので注意する。

＜収穫期防除について＞
長雨が続き穂先のとろけ、軟腐臭がする場合
 →ボルドーを打ち、細菌を一扫。
茎枯病を抑えたい
 →ベンレート水和剤・アミスター20フロアブル・ダコニール1000などを用いて、糸状菌を一扫。